



企画・プロデュース・総監督：片野秀俊

福島県出身4人の指揮者による
福島復興祈念
チャリティコンサート

浜離宮朝日ホール

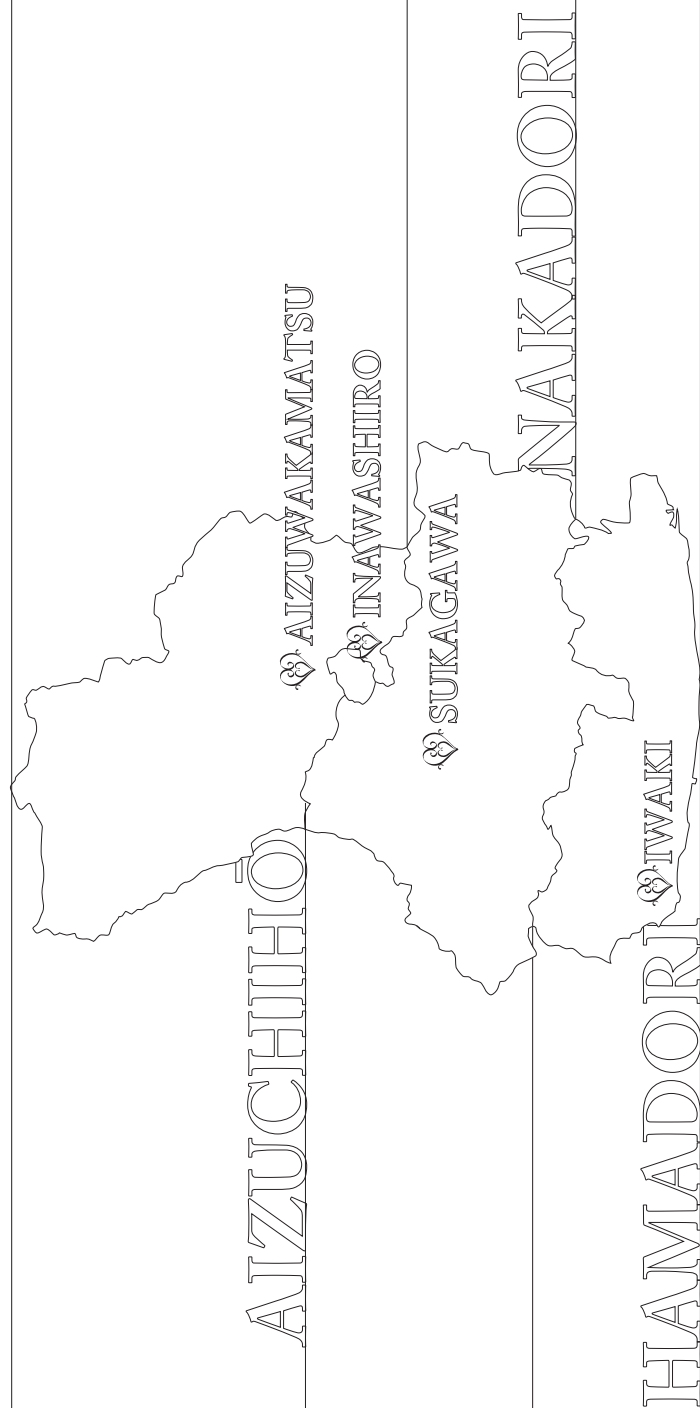
2015年7月25日(土)

15時30分開演

主催：福島復興コンサート実行委員会

後援：朝日新聞社、全日本合唱連盟、東京都合唱連盟、福島県合唱連盟、JCDA日本合唱指揮者協会

協力：音楽之友社、カワイ出版、パナムジカ



FUKUSHIMA Prefecture

ごあいさつ

その日、オーストラリア・ウーロンゴンでのマチネ・コンサートを終え、私達は音楽の余韻に浸りながら安堵と共に心地良く疲労した身体をシドニーのホテルへ帰るバスの座席にゆだねていましたが、その知らせを聞いたのはそれからほどなくの事でした。

添乗員の携帯電話に日本からの一報が入ったのです。「たった今、日本で大地震が発生！東日本全体に大混乱が起っている！」続いて「東北の広い沿岸一帯に超特大の津波が押し寄せている！」間もなくバスの中の乗員達の携帯も一斉に鳴り出したのでした。

ごった返すホテルのロビーに着いた時、すでに日本からの連絡は電波が不通になっていて、部屋に戻って写し出されたTVには信じ難い津波の映像と、福島原発の大崩壊が画面いっぱいに広がっていました。それは目を覆うばかりの情景で、後で聞くとあまりの悲惨さに日本国内ではTV放映されなかったものもあったという事でした。

不安と心配でいっぱいの私達が帰国したのは17日、カンタス航空のパイロットや乗務員が「今、日本に行ったら放射能にやられる」と云って飛行機が予定通りに飛ばなくなってしまい、日程を延期し香港経由で乗務員を入れかえて、やっとの事で成田空港に着いたのでした――。

2011年3月11日、岩手・宮城・福島を中心地とした大地震「東日本大震災」が発生し、この地震による大津波は2万人にも及ぶ尊い人命を奪い、広い地域に未曾有の被害をもたらしました。福島県でも浜通り地方では、いくつもの町が跡形もなく流され何百人もの方々が犠牲になったのですが、福島県は更なる脅威にさらされる事になるのです。

津波によって破壊された東京電力福島第一原子力発電所は、広範囲に渡って放射性物質をまき散らし、未だに収束の見通しすら立っていないのが実情なのです。

あの日から4年4ヶ月の時が経過した今も、故郷を失い仮設住宅での生活に苦しむ人々が、県内だけでも8万人を数えますが、その上、追い打ちをかける如き、様々な風評被害は、現在も福島県民を苦しめているのです。

音楽を^{なりわい}生業として来た私達に、このような時、何ができるのだろうか。音楽を演奏し聴いて頂く事で、ほんの僅かでも、故郷福島の人々の力になれないだろうか。そんな思いから、このコンサートはスタートしました。

福島県出身の4人の指揮者と、その傘下合唱団によるチャリティコンサートです。「人々の記憶から遠く薄れていく大地震、そして原発事故を決して忘れてはならない」その思いを込めて私達は歌い訴え続けてまいります。

『忘れない！2011.3.11』

片野秀俊

オープニング (合同ステージⅠ)
指揮：高橋祐二 ピアノ：江川龍二

REQUIEM K.626
作曲：Wolfgang Amadeus Mozart

Lacrimosa (涙の日)

1 指揮：鈴木茂明
ピアノ：池田悦子
合唱：混声合唱団コーロ・ソフィア

混声合唱曲 **わたしの願い**
作詞：高野喜久雄／作曲：高田三郎

- I いま わたしがほしいのは
- II 雲雀にかわれ

日常であって、一体何が余剰であり、求めるべきは何かといった問いを、この作品は私たちに突きつける。高野のこの詩に出会った高田は「日本語のフーガを書く時が来た」と確信したという。現実に耐えながら高みにあろうとする心は、フーガにより、おびただしい雲雀の飛翔に象徴されている。

2 指揮：菅野正美
ピアノ：庄司紀子
合唱：安積^{あさか}フィメールコール

女声合唱組曲 **悲しみの意味**
作詩：星野富弘／作曲：なかにしあかね

- 1. 今日朝から雨
- 2. 木のように
- 3. 椿
- 4. 愛されている
- 5. 野ばら
- 6. 悲しみの意味

星野富弘氏の珠玉のような言葉に作曲された、なかにしあかね氏による歌曲集『木のように』(全5曲)と『ひとつの花が咲くように』(全5曲)から各3曲が選ばれ、作曲者自身の長い逡巡を経たのち、2010年に女声合唱組曲として編まれたもの。一曲一曲が異なる個性をもち、いずれも透き通る優しさと軽やかさの中に、真実の重さ・深さが色濃く感じられる素晴らしい作品です。

休憩

3 指揮：高橋祐二
ピアノ：江川龍二
合唱：会津混声合唱団

日本民謡によるタブロー第2集
四つの福島民謡 より
作曲：寺嶋陸也

- 2. 玄如節
- 4. 会津磐梯山

混声合唱組曲 **方舟** より
作詩：大岡信／作曲：木下牧子

- I 水底吹笛
- IV 方舟

玄如節：会津磐梯山の元歌となった曲ですが、会津でも存在自体を知らない人が多い曲です。歌詞が一定しておらず膨大な歌詞群や即興による掛け合いの形式をとっており一種知的なゲームのようです。会津磐梯山：会津地方で広く盆踊り唄となっている「会津磐梯山」は、実は『玄如節』からの転用から出来た新民謡で、昭和10年頃に小唄勝太郎のレコードに吹き込まれ、「おはら庄助さん なんて身上つぶした…」のおはやしが入り、それが全国的に広まり有名になったといわれています。

水底吹笛：“ひょうひょうとふえをふこうよ”という、とても感覚的で印象的な歌い出しから、アチェレランドトリタルダンドが交互に、しかもしばしば用いられ、この微妙なテンポの揺れが、この詩の(ひらがなだけでかかれています) 幻想的な雰囲気を実際立たせています。

方舟：全編 5/4 拍子で貫かれ、極めて力強く、豊かな音楽が流れていきます。この組曲を締めくくりにふさわしい曲です。

4 指揮：片野秀俊
ピアノ：木村裕平
合唱：登戸混声合唱団と仲間たち

混声合唱組曲 **水のいのち**
作詩：高野喜久雄／作曲：高田三郎

- 1. 雨
- 2. 水たまり
- 3. 川
- 4. 海
- 5. 海よ

高田三郎 51歳の時の作品。1964年、片野秀俊氏が長年正指揮者を務めたプロ合唱団「日本合唱協会」により初演。高田先生ご自身の指揮で10数回歌い、多くの合唱団で100回ほど指揮をしてきた氏が、その度に新しい感動に心が震え、自分の生き方を問われる思いがする、と語っている。高野喜久雄の詩により、最初にできたのは「水たまり」。「水」の循環に事寄せて人の生き方を重ね合わせた作品。初版の「カワイ楽譜」の発行者は清水脩。誕生から50年以上の現在、楽譜は第111刷と、名実ともに他の追従を許さない名曲・日本合唱曲の至宝である。

エンディング (合同ステージⅡ)
指揮：菅野正美 ピアノ：庄司紀子

REQUIEM OP.48
作曲：Gabriel Faure

IN PARADISUM (天国にて)



指揮・発声指導 **鈴木茂明** (すずき しげあき)



Message

私は、高校生までの18年間を福島県で過ごしました。会津、中通り、浜通り、それぞれの地域や気候、人々との温かい出会いに育ててもらいました。音楽家の道に導いてくれた福島は、今も心のよりどころとなっています。

合唱指導やコンクール審査員として度々福島を訪れてまいりましたが、2011年、東日本大震災直後の夏に聴いた、小学校全校生徒による合唱を忘れることができません。「世界中の子どもたちが一度に笑ったら、空も笑うだろう、海も笑うだろう〜」「いま未来の扉を開く時、悲しみや苦しみが、いつの日か喜びに変わるだろう。I believe in future〜」。現状に屈することなく、心からの願いが込められた歌声は、心に響きました。世界中の子どもたちが手をつなげば、この地球上に明るい未来がやってくるに違いないと思わせる説得力がありました。「音楽の力」「音楽の役割」を改めて考えさせられたのです。歌うことは、“生きた言葉”を“生きた音楽”で“心から表現する”こと…、歌の本質を気付かされました。歌を通じて、一人ひとりが手をつなぎ、この世界に平和が訪れることを願わずにはられません。

本日は、ご来場、誠に有難うございました。

Profile

福島県猪苗代町出身。小高小学校、郡山第一中学校、安積高等学校を経て、国立音楽大学声楽科卒業。同大学大学院ドイツリート専攻修了。井上貞一氏に師事。1984年、1990年にウィーンにてG・カーリー、L・コラー氏に師事。ドイツリートの表現法と発声構築法を莊智世恵女史のもとで研鑽を積み、現在に至る。ドイツリートによるリサイタル、ミサ曲のソロ、「椿姫」、「ラ・ボエーム」等のオペラに出演。2006年4月にはノーマン・シェトラー氏のピアノによりドイツリートリサイタルを開催（於東京オペラシティコンサートホール）、及びCD『鈴木茂明ドイツ歌曲集／遙かなる恋人に』（コロムビア）をリリース。また、邦人合唱曲の分野においては、日本語と音楽の密接な融合を果たした高田三郎合唱作品の演奏に務め、指揮法及び演奏法を20年余りにわたり作曲家自身に師事。1996年、ローマ日本文化会館の招聘を受け、混声合唱団コーロ・ソフィアを率い、イタリア、フランスにて高田三郎と共に高田作品のみによる演奏会の指揮を務め、聴衆に深い感動を与えた。2004年にはパレストリーナ音楽財団の招聘を受け、ローマ、パレストリーナにて同合唱団を指揮し高い評価を得た。その演奏は、パレストリーナ研究の世界的権威であるリーノ・ピヤンキ教授、パレストリーナ音楽財団芸術監督ジャンカルロ・ロスティロツァ教授にも絶賛される。1992年、95年には「イスラエル典礼聖歌の旅」（指揮：高田三郎）に副指揮者として、2000年には指揮者として同行。1993年より、高田三郎作品の個展「リヒトクライス演奏会」を主宰し、今年2月、21回目を迎えた。現在、混声合唱団コーロ・ソフィア、女声合唱団コーロ・コスモス、筑波大学混声合唱団、その他の指揮者。声楽、発声法指導者。日本演奏連盟会員、日本合唱指揮者協会会員。



指揮 **菅野正美** (かんの まさみ)



Message

皆様、本日はようこそ福島復興祈念チャリティーコンサートにお越しくださいました。全日本合唱連盟の仕事を一緒にさせていただいております片野秀俊先生からこの会の企画を伺い、先生の故郷へ寄せる深い思いと、福島のために何かをしなければという厚い信念に、一も二もなく賛同しました。

福島に住み生活している者にとっては、ただただ毎日を精一杯生きること、がむしゃらに前に進み続けることで「あの日」から4年の歳月を重ねてきました。先の見えない様々な苦しみ、悲しみの渦中にある福島ではありますが、これまで私たちは多くの皆様から、本当にたくさんの励ましや勇気、優しさや温もりをいただいて参りました。

本日はそんな私たちの思いや願いをすくい取ってくださったかのような星野富弘氏の詩に、なかにしあかね氏が見事に寄り添い創り上げた「悲しみの意味」を演奏いたします。日頃は郡山組と東京組に分かれて活動している安積フィメールコールですが、今日は力を合わせ合同でステージに立ちます。どうぞお聞きいただき、ご高評を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Profile

福島県須賀川市出身。1979年、国立音楽大学音楽学部教育音楽科I類卒業。声楽を高橋啓三、中村卓郎、栗本正、ピアノを高橋美紗子、細野其子、指揮を小塚類、田中信昭の各氏に師事。1987年から1998年まで安積女子高等学校（現安積黎明高等学校）に勤務、同校合唱団を指揮。この間、全日本合唱コンクール全国大会にて12年間連続金賞（内、文部大臣奨励賞連続11回）を受賞。NHK全国学校音楽コンクール全国コンクールにて金賞・内閣総理大臣賞を7回、銀賞を3回受賞。1999年より福島女子高等学校（現橘高等学校）に勤務。全日本合唱コンクール全国大会に2001年より6回出場、金賞4回・銀賞2回受賞。2006年3月に福島女子高等学校、橘高等学校卒業生の合唱団「からたち」を発足し、2007年全日本合唱コンクール全国大会一般部門で金賞を受賞。2007年、福島県合唱連盟60周年記念青少年合唱団を指揮。プラハ、ウィーン、ザルツブルグの各コンサート、ミサで高い評価を受けた。2008年4月より郡山高等学校に勤務。2010年3月、第3回声楽アンサンブルコンテスト全国大会に出場。高校の部で金賞を受け本選に出演、総合第2位を受賞。以後第5・7・8回大会で同賞を受賞。2014年、NHK全国学校音楽コンクール全国コンクールにて銀賞。全日本合唱コンクール全国大会では、混声合唱団として参加した2013年から2年連続金賞受賞。2013年には室内合唱の部に出場した「L' Aube des Temps」を指揮し全国大会初出場、金賞・日本放送協会賞受賞。現在、全日本合唱連盟常務理事・東北支部長、福島県合唱連盟理事長。

指揮 高橋祐二 (たかはし ゆうじ)



Message

最近、復興支援ソング「花は咲く」の歌詞が一カ所変更になったのをご存じだろうか。曲の終わりに「花は花は花は咲く、わたしは何を残しただろう」というところで、最後に「私は何を残しただろう」と3度繰り返すところがある。その最後の1回を「わたしは何を残すだろう」に変更したという。これは、作曲者の菅野よう子さんの「震災から4年が経ち、自分もやっと立ち上がってみようという気分になった。そこで初めて曲の最後で、何を残すだろう、と言えた」「東北の人が一歩前へ進む勇気に寄り添えたらと思う」という気持ちからだろう。当初は亡くなられた人達の気持ちに思いをはせ、「わたしは何を残しただろう」と歌っていたのが、これから生きていく者が「わたしは何を残すだろう」と前を向く気持ちが大切なのだと思うように変わっていったのだと思う。時間の経過とともに人の気持ちは変わっていく。先人の思いを忘れず、今を生きていく我々が前を向いていくことがいかに大切なことか…とっている。

Profile

1953年福島県会津若松市生まれ。福島県立会津高等学校を経て東京学芸大学卒業。ピアノを秋月和子、小原ひろみ、声楽を藤村晃一、小田野正之、藤井典明、指揮を伊藤栄一、栗山文昭、大谷研二の各氏に師事する。大学卒業後福島県に戻り38年間教職に就き、平成26年3月に定年退職する。在職中は会津高等学校(男声合唱)、会津学鳳中学校高等学校(女声合唱)において全日本合唱コンクール全国大会に8回出場。また、平成4年より会津混声合唱団常任指揮者を務め、全日本合唱コンクール全国大会には17回出場。平成16年には文部科学大臣賞を受賞。現在は会津混声合唱団、コーラス秋桜常任指揮者。福島楽友協会合唱団所属。福島県合唱連盟副理事長。

指揮 片野秀俊 (かたの ひでとし)



Message

登戸混声合唱団は1980年創立、今年35周年を迎える市民合唱団です。1987年にXマス・チャリティコンサートを開始してから毎年、このコンサートを27年間続けて来ました。来場者から頂いた募金は、川崎市の社会福祉施設等に寄附させていただき車イスその他に役立てて頂いています。また“東日本大震災”以降は、更に小田急線登戸駅でのコンサートを度々開催し、寄附金を全日本合唱連盟東北支部にお送りして来ました。

この度は私が指揮している合唱団(混声合唱団「四季」「ひびき」「東京ガス」、女声合唱団「えれがんつあ」「ファンタジア」「ドルチェ」「ミニヨン」「翠」「虹の音」、男声合唱団「秀声会」以上「アミーチ・デルカント≒146」構成団)他、「冴」「ル・シャン・デ・フルール」「ムジカ・ノヴァ・コンソート」等々にも主旨賛同を得て、「登戸混声合唱団と仲間たち」として演奏します。

日本の合唱曲を代表する不朽の名作「水のいのち」を通して“人は何故生まれてきたのか”“人は何故生きているのか”“人は何故生かされているのか”という人間にとって最大のテーマを見つめ直す事ができればと願っています。

Profile

福島県いわき市錦町出身。東京声専音楽学校(現昭和音楽大学)卒業。プロ合唱団・日本合唱協会にて1970年から1984年までBass歌手、ソリスト、コンサートマスター。長年にわたり、音楽監督山田一雄氏の薫陶を受け、1985年第68回定期演奏会にて指揮者デビューし日唱正指揮者に就任。同団を伴って全国各地で演奏活動を行う。海外ではNYカーネギーホールをはじめ14カ国、20都市で演奏し高評を得る。NHKラジオ「みんなのコーラス」レギュラー解説者、NHKTV「名曲アルバム」他多数出演。「教育音楽」等音楽雑誌への執筆をする一方、アマチュア合唱団の育成にも力を注いでいる。また、日本ニューフィルハーモニー管弦楽団、TokyoFortuna管弦楽団等オーケストラの指揮も数多い。

NHK 全国音楽コンクール、全日本合唱コンクール審査員。日本演奏連盟会員。全日本合唱連盟常務理事。東京都合唱連盟顧問。多摩区合唱連盟理事長。

指揮法を山田一雄、ヘルムート・リリング、山本直純、荒谷俊治、飯守泰次郎、若杉弘、演奏法を平井康三郎、清水脩、声楽を下八川圭祐、芳野晴夫他の各師に師事。女声合唱曲集「四季を綴る」監修。

出演者紹介: ピアニスト



池田悦子 (いけだ えつこ)

Stage 1



桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ科卒業。北村陽子氏、G・シェベック氏、A・ピヒト氏に師事。伴奏法を莊智世恵氏に師事。卒業演奏会、読売新人演奏会、各地での新人演奏会にデュオで出演。高田作品については、作曲者本人から作品の真髓を極めるレッスンを何度も受け、今もなお鈴木茂明氏のもとで研鑽を積み、研究し続けている。2004年5月イタリア・ローマ、パレストリーナにてコーロ・ソフィアに同行し、現地での演奏会に出演。現在、声楽、混声合唱団コーロ・ソフィア、女声合唱団コーロ・コスモス、筑波大学混声合唱団等のピアニストを務める。



庄司紀子 (しょうじ のりこ)

Stage 2, エンディング



福島県郡山市出身。郡山第二中学校、安積女子高等学校卒業。1980年、安積女子高の全日本合唱コンクール大賞受賞時にはメゾソプラノのパートリーダーを務めた。お茶の水女子大学音楽科に進み、在学中は合唱団 OMP に所属。卒業後、同大学研究生を経て大手出版社の音楽部門で長年にわたり、ピアノ教育関連を中心とした書籍・楽譜・CD等の企画・編集制作に携わる。1989年、ASAKA FEMALE CHOIRのオーストラリア演奏旅行にはピアニストとして同行。ピアノを尾上禎子、渡部康夫、遠藤秀一郎、井上百合子、田中瑤子の各氏に師事。現在は音楽制作会社で執筆分野にも携わる傍ら、樹の会合唱団にも所属。赤羽聖書教会奏楽者。安積フィメールコール東京代表。



江川龍二 (えがわりゅうじ)

オープニング, Stage 3



国立音楽大学・器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを秋月和子、ウラジーミル・竹ノ内、池沢幹男、指揮を小塚類の各氏に師事。福島県立高校教諭として勤務し2006年に退職。現在は、自宅にて音楽を志す後進の指導にあたっている。これまで、東京や会津若松でのコンサート、ジョイントリサイタル、サロンコンサート、チャリティーコンサート、芸術教室等に出演。独奏の他、オーケストラや吹奏楽、合唱団、器楽、声楽との共演も数多い。あいつあすなる合唱団指揮者、にろく大学歌唱教室講師、会津演奏家連盟代表。



木村裕平 (きむら ゆうへい)

Stage 4



ドイツ桐蔭学園高等部を経て武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。父親の海外赴任に伴い、ブラジル・サンパウロにて生まれ、幼少期を過ごす。その後日本を経て、中学～高校をドイツ・デュッセルドルフに過ごす。2005年「武蔵野」日本の歌コンクール優秀共演者賞受賞。現在声楽・合唱のコンサートピアニストとして、リサイタルやレコーディング、また新曲日本歌曲の初演や2009年錦織健プロデュースオペラをはじめ、数多くのオペラプロダクションの音楽スタッフ(コレペティ)として活発な演奏活動を行っている。同時に、声楽家・新垣勉氏のオフィシャルピアニストとして、海外をはじめ全国各地でのリサイタル及び、テレビ朝日「徹子の部屋」TBS「NEWS23」NHK「歌謡コンサート」テレビ東京「レディス4」ラジオFM文化放送「辻よしなりのラジオグラフィティ」等多数メディアにおいて共演している。

出演者紹介: 合唱団



混声合唱団コーロ・ソフィア



Member

Soprano

愛澤めぐみ	阿部富子
大島香代子	小笠原英子
小野久恵	熊谷仁美
倉部恵美子	後藤朱利
志賀いく子	信夫蓉子
田中恭子	唐木三重子
中島順子	中島與子
南雲明子	南雲桃子
福沢節子	福田鈴子
森脇有紀	八子理子
湯浅明子	

Alto

伊吹エリ	越智琅子
尾和令子	木本恭世
関亜紀子	相馬しず香
高倉節子	高澤道子
高梨古眞子	堀浩子
増淵弓子	

Tenor

内山信三	太田雄一郎
大矢忍	片嶋淑隆
川原一夫	小林聖史
代田禄之	鈴木亨
高石優里	野場啓

Bass

押野尚夫	小野敏夫
尾和邦彦	楠啓次郎
小瀧義久	佐藤和人
下平文彦	田中裕之
千枝隆一	中川祥一
福沢光臣	宮木孝典
米澤龍騎	

Profile

1990年、声楽家・合唱指揮者の鈴木茂明氏の音楽理念に深く共鳴して結成される。歌唱表現を豊かに実現するための発声構築法を習得しながら、人間の精神を深みへ導く高田三郎作品、詩と音楽が深く融合したドイツロマン派作品を中心に演奏活動が続いている。定期演奏会、高田作品の個展としてのリヒトクライス演奏会、ピクチャーによるCD録音など、活動は多岐に亘る。

1996年にはローマ日本文化会館の招聘を受け、イタリア・フランスで演奏、高田作品の真髓に迫り、大きな感動を与えた。2000年高田氏逝去に際して、通夜、告別式で聖歌隊を務めた。2004年にはパレストリーナ音楽財団の招聘を受け、ローマ・バチカン・パレストリーナ公演を行い、イタリア語版「水のいのち」をイタリア著作権協会合唱団とともに演奏、楽譜を出版。作品の深い理解に基づいた演奏は高い評価を受け、高田作品を世界へと広める役割の一翼を担った。生前の高田氏の度々の指導は人間存在の神秘を語り叡智を授けるものであり、団員の胸深くに刻まれている。

また、2007年第8回演奏会にてフォーレ「レクイエム」、2011年創立二十周年記念演奏会にてブラームス「ドイツ・レクイエム」、2013年第11回演奏会にて、モーツァルト「レクイエム」を演奏。祈りと音楽が融合したレクイエム演奏であったと絶賛を受けた。

- 練習日/土曜日18時-21時
- 場所/文京シビック練習室 他
- ホームページ/<http://coro-sophia.org>
- メール/info@coro-sophia.org

安積フィメールコール



Profile

福島県立安積黎明高等学校(旧・安積女子)合唱団卒業生で構成する女声合唱団。

1987年訪欧。ウィーン青少年音楽祭にて「ウィーン大賞」を受賞。1989年、渡豪演奏旅行。1999年、三谷晃一作詩・湯浅譲二作曲による女声合唱組曲『ふるさと詠唱』をレコーディング(安積女子高校委嘱作品)。2002年、恩師・渡部康夫氏の指揮活動55周年記念コンサートを経て東京支部結成。以後、郡山と東京とで独自に活動を続ける。

2010年、渡部氏の逝去にともない、後任に恩師・菅野正美氏を指揮者に迎える。東日本大震災後は「ふるさと福島のために」をテーマに、安積黎明高校合唱団とのジョイントコンサートを2012年、2014年に東京にて開催した。

○ ホームページ / <http://www.geocities.co.jp/MusicHall/5903/>

Member

Soprano

五十嵐みゆき	石橋恭子
大家ひろみ	川副 恵
黒田和子	小林圭子
小針久美	小山直美
島本冬美	角田睦美
長瀬由美子	中丸典子
馬場江利子	堀越明子
横山美香	吉岡佐知子
渡辺芽ぐみ	

Mezzo-soprano

阿部敬子	石井家世子
遠藤範子	大内あけみ
大谷千佳子	大和田倫子
春日友香	佐藤弘子
佐和田恵子	菅井真規
鈴木佐紀子	玉川みゆき
前田晶子	山口由夏

Alto

安藤玉枝	飯村由貴子
井出優子	河手ひとみ
志田和子	須藤真由美
浜津恵美子	三宅千代
矢吹真理子	脇田ユミ

会津混声合唱団



Profile

会津混声合唱団は、1952年8月、合唱を通じてより善なるもの、より真なるもの、より美しいものを追求し、また、合唱技術を研磨して地域社会の音楽普及育成に寄与する事、並びに、団員の豊かな情操を作り団員相互の親善を図る事を目的として創設されました。年一回の定期演奏会開催と全日本合唱コンクール出場を軸に、地域の演奏会への参加など、幅広く活動しています。

1991年より高橋祐二氏を常任指揮者に迎え、全日本合唱コンクール全国大会に17回出場し、2004年に文部科学大臣奨励賞、金賞10回、銀賞7回を受賞しました。定期演奏会では、歌あり、踊りあり、笑いありのステージを企画し、歌う喜びに満ち、地域とともにある合唱団を目指しています。

Member

Soprano

入岡奈津美
大東多真絵
栗村美喜子
横山裕理

Alto

江花千尋
小林佑子
小向恵子
長澤真理
長嶺悦子

Tenor

大竹靖彦
門口壮一
沼木健治
坂内健志
皆川悠

Bass

井関剛
小澤広之
菅野豊喜
慶徳勝憲
小向剛
星裕一

登戸混声合唱団と仲間たち



Profile

指揮者片野秀俊氏の呼びかけのもと 1980年に神奈川県川崎市多摩区にて発足。これまで27年連続のXマスチャリティーコンサートや駅コンサート等を開催し、社会福祉他への協力を力を入れている。又海外公演も当団の特徴のひとつ。今回は同指揮者のもとで活動し、日頃交友を深めている歌仲間達も加わり、日本合唱協会が1964年に初演した「水のいのち」を演奏する。

Member

Soprano

筏井由美子	石和綾子	稲垣厚子
上原勝枝	大島慶子	太田和枝
大平雅子	奥村由美子	加藤由貴子
川野順子	小泉礼子	小暮ひろ子
児玉安代	坂根千恵子	佐藤佳子
末次幸子	鈴木琳子	須山久美子
高橋聡子	竹内スミ子	寺田和代
中野由美	中村由美子	中村由子
那須結美	西村由紀子	根本久美子
花島佳子	濱野とも子	土方和江
平原みち子	二見京子	別府優
前川真緒	宮島享子	室内真紀
望月裕子	森公美子	山口啓子
山田紀子	吉田朋子	吉津佳津子
渡部信子		

Alto

青木輝代	青柳暁子	阿部喜久枝
阿部博子	安藤順子	石毛陽子
市川真理	一戸法子	岡松祐子
小俣佳子	河西祥子	柏崎亜子
川越洋子	日下能婦子	朽木美智子
栗原久美子	小島優子	後藤幸子
斎藤かおる	佐藤富美子	柴田牧子
清水厚子	竹本泉	田中正子
谷宣子	内藤しな子	中平昌子
中村純子	成瀬文子	根岸圭子
根村道子	平井慶子	前岡裕子
松本寛子	見澤啓子	宮坂郁子
森川順子	森田貴子	吉武慶子
吉田ヒサ子	吉田文代	吉田玲子
和田晴子		

Tenor

小口武人	小島 修
小野 剛	小野博茂
釜我利彦	佐藤尚之
関口茂雄	中沢 剛
成瀬宗宏	西田 誠
橋本俊幸	森園茂馬

Bass

石田信孝	今村勝行
追川 誠	柏崎康徳
金森由樹	高野晴行
佐藤一則	清水義昭
杉浦英和	友永 朗
長沢真一	中野泰志
新田義純	早川恭三
檜垣謙一	平野俊幸
富士 秀	細野文夫
森 雅人	森山伸夫

福島復興祈コンサート実行委員会

企画・プロデュース・総監督
片野秀俊

登戸混声合唱団と仲間たち

根村道子 小野博茂 渡部信子 追川誠

安積フィメールコール

庄司紀子 三宅千代 前田晶子 小針久美

混声合唱団コーロ・ソフィア

川原一夫 高澤道子 太田雄一郎 田中

会津混声合唱団

坂内健志 慶徳勝憲 入岡奈津美

協力

ステージマネージャー: 三好草平

撮影:

会場:

デザイン: 小針久美